



— ALTや英語講師とのTTを考える2 —

今回は、「ALTや英語講師とのTTを考える2」と題して、前々号の内容をもう少し具体的に、授業イメージという形で示してみたいと思います。ALT(英語講師)と学級担任のTT指導という条件で、キーワード・ゲームを例に見てみましょう。

皆さんならどのように進めますか? 教室での様子をイメージしながら読み進めてみてください。

■ キーワード・ゲームの進め方(イメージ)

▶ タイプA: 「ALT(英語講師)がいるのに○○・・・」タイプ

(動物やフルーツ等のカードを数種類、黒板またはホワイトボードに掲示したところから・・・)

学担「次は、キーワード・ゲームをしましょう。」

学担「後ろの人とペアを作ってください。」

学担「消しゴムを一つ使います。どちらかの消しゴムを出して、二人の間に置いてください。」

学担「マーク先生が言う言葉を繰り返して言います。」

学担「でも、キーワードを言ったら、繰り返さずに消しゴムを取ります。相手より早く取ったら勝ちです。」

学担「最初のキーワードは、○○です。」

学担「両手を頭に載せてください。では、始めます! マーク先生、お願いします!」

(ここまでマーク先生は待たされたまま・・・)

キーワード・ゲームは理解できているので指示は間違っていないのですが、日本語での説明が多過ぎでしょうか。何より、せっかくALT(英語講師)の先生がいるのに、言語材料の指導場面で学担がちっと「出過ぎ」です。ここは、任せていいのです。もう一つもったいないのは、児童が英語の音を耳にするチャンスが「単語だけ」に限られているところです。もう少しクラスルーム・イングリッシュを使った、TT指導を生かした、自然な英語のインプット量がほしいところです。

▶ タイプB: 「ALT(英語講師)がいるから○○・・・」タイプ

(動物やフルーツ等のカードを数種類、黒板またはホワイトボードに掲示したところから・・・)

学担 “Let’s play the Key Word Game. Mark-sensei!”

Mark “OK! Turn around, make a pair. (ジェスチャーを付けて)”

学担 (マーク先生の隣で、ジェスチャーを付けながら同じフレーズで指示を繰り返したり、マーク先生の指示が通っていないペアに個別にサポートしたり・・・)

Mark “Take out your eraser. One eraser. Put it on your desk. (ジェスチャーを付けて)”

学担 (違うジェスチャーで同じフレーズの指示を繰り返したり、同じジェスチャーでキーになるフレーズを繰り返したり、個別にサポートしたり・・・)

Mark “Put your hands on your head. Repeat after me. But!!

The Key Word, don’t repeat. Grab your eraser! (ジェスチャーを付けて)”

学担 (マーク先生の英語に合わせてやって見せる、最後のところは「ひったくるジェスチャー」で・・・)

⋮

*使える英語フレーズはこれだけではないので、いろいろ考えてみましょう。

いかがでしょうか。繰り返しになりますが、ゲームのルールを英語で説明し、ゲームを進めながら新しい語彙を教えていくのはALTの先生でいいのです。もちろん “Short・Simple・Easy” な英語表現で、ジェスチャーを付けて指導してもらいましょう。学担の先生は、必要に応じて英語を繰り返してもらったり、別なフレーズで言い変えてもらったり、児童の様子を見ながらサポートしたりします。もちろん、柔軟にTTをやって構いませんので、後は打ち合わせ次第というところです。また、こうした活動の際には、ALTの先生と学担でデモンストレーションを見せるのが効果的です。上記の例で言うと、マーク先生の英語に合わせて、学担の先生が一つ一つ動作をする場面です。マーク先生の口から発せられる「英語の音」が、「意味を伴って」児童の耳から入る・児童の目に映る瞬間です。その繰り返し・インプット量が、言葉の獲得には大切だと言われます。「クラスルーム・イングリッシュをもっと使って指導しましょう!」というのには、そうした意味があるのです。

現在巡回中の本務校・兼務校の先生方で「タイプA」がいるということではありませんので、誤解のないようにお願いします!!

「タイプB」も、ALT(英語講師)や学級担任の先生方の個性(持ち味)によって、児童への浸透度はぐっと高まるようです。

ALT(英語講師)とのよりよいチーム・ティーチングで、外国語活動をもっと充実したものにしませんか!